

平成27年度

阿南市立山口小学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- 1 児童が自ら考え、判断し、成就感を味わうことができる学習活動の展開
- 2 互いの考えを伝え合う話し合い活動の活性化
- 3 家庭学習・家庭読書の充実

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 漢字の読み書きや計算等の基礎的な知識・技能は、ある程度定着がみられる。	①漢字や計算の基礎的学力を確実に身につける。 ②話し手を見て聴くことができる。	①基礎的基本的な事項についての確認テストの正答率を85%以上にする。 ②常に話し手の方を向いている。	国語の文法、算数の小数や時間等、既習内容を復習する機会を増やす。	①確認テストを行うことに加え、毎日漢字の書き取り課題を出して、定着を図った。 ②聴き方の姿勢が悪い児童には注意を促し、よい児童を称賛した。また、児童が興味を示す話題で、姿勢良く聴けるようにした。	①漢字の読み書きや計算等の基礎的・基本的な事項については、成果指標を達成できた。 ②話し手を見て聴こうとする意識は高まってきているが、常に見る、わかって見ようとする態度までは育っていない。
課 題 漢字の習得や語彙力に個人差があり、文章を書くことに苦手意識がある。 話を聴く態度が身につけていない児童がいる。	①朝の活動で、国語・算数のドリル学習と確認テストを継続して行う。 ②モデルを示し、話し合いの基礎となる聴き方を身につけさせる。	①単元ごとに定着確認テストを行う。 ②姿勢が悪い児童には注意を促す。		評価 B ・朝の活動のドリル学習の内容を見直し、既習事項も定期的に振り返らせるようにする。 ・聴く態度を徹底させるため、手立てを工夫改善する。 ・ICTなどの教材を活用し、基本的な内容の定着を図る。	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 音読や劇の発表など、方法や手順のわかっている表現活動には意欲的に取り組める。	自分の考えをまとめて、話したり書いたりして、伝え合うことができる。	①進んで発表できる児童を50%以上にさせる。 ②文章を書くことが好きと答える児童を50%以上にさせる。	自分の考えを書く活動や、話し合う活動をさらに充実させる。	①教室に話し合いの仕方を掲示し、毎日、どこかの時間で話し合う時間をもつようにした。 ②国語や算数の授業で自分の考えを書くことに加え、行事の感想やお礼の手紙なども意図的に設定した。	①児童のアンケートでは、成果指標50%以上の90%となった。 ②児童のアンケートでは、成果指標50%以上の75%となった。
課 題 他者の意見を聴き、自分の考えを説明する力に課題がある。	①発表や話し合いのパターンに習熟させる。 ②学習活動の中で、自分の考えを書く活動を意図的に設ける。	①1日1回以上は、パターンにそった発表をさせる。 ②1日1回は、ホワイトボードに書く活動を取り入れる。		評価 A ・学年、教科の特性に応じて児童の話し合いを増やすよう、授業改善を図る。 ・問題場面を図にかいたり、考えを記述する機会を増やす。 ・文章を書くことに興味関心をもてる手立てを工夫する。	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 与えられた課題にはまじめに取り組む児童が多い。	①主体的に授業に取り組むことができる。 ②進んで自主学習をすることができる。	①児童の「ふり返りカード」で、すすんで学習した児童を、50%以上にさせる。 ②学年に応じた目標学習時間を達成できた児童を、80%以上にさせる。	児童が興味をもって取り組めるよう授業を工夫する。 家庭での学習時間を定期的に確認する。 自主学習を適切に評価し、児童が達成感を味わえるようにする。	①めあて黒板を利用し、毎時間の授業のめあてを提示することを徹底した。 ②家庭学習充実週間を設けたり、自主学習ノートに進んで取り組めた児童に手作りシールを渡したりするなど、評価を工夫した。	①児童のアンケートでは、成果指標の50%を達成できた。 ②自主学習をしようとする児童が増え、成果指標はほぼ達成したものの個人差が大きい。
課 題 少人数のため、学習が受け身になりがちである。 家庭での読書時間が少ない。	①授業のめあてをはっきりさせて、学習に取り組ませる。 ②児童が「家庭学習の手引き」を活用して、学習に取り組むことができるようにする。	①児童の意欲的な活動を称賛する。 ②自主学習がよくできている児童を称賛する。		評価 B ・学び合いの基盤となる学習規律の徹底と他者を尊重する態度を養う。 ・主体的に問題解決する授業を多くする。 ・自主学習の目標設定を見直すとともに、強化期間を設定してメリハリをつける。 ・自主学習の仕方について、具体的な指導をし、質の向上を図る。	次年度における改善事項

平成27年度 学力向上ロードマップ

